

県立中央博物館
若狭湾から新種テッポウエビ類の発見
—貴重な抱卵メス1個体—

県立中央博物館の駒井^{こまい} 智幸^{ともゆき} 動物学研究科長と京都大学の研究グループは、日本海の若狭湾からテッポウエビ科の新種を発見し「ワカサムラサキエビ」と名付ました。

この種は1年間の調査で1個体しか採取されていませんが、昨年も若狭湾からはエビ類の新種「ワカサスナモグリ」が発見されており、日本海には未知なる生物多様性があると考えられます。

この成果は、2023年5月2日付の国際学術雑誌 Zootaxa 誌で公開されました。

1 研究グループ（連名順）

駒井^{こまい} 智幸^{ともゆき}（千葉県立中央博物館 動物学研究科長）

邊見^{へんみ} 由美^{ゆみ}（京都大学フィールド科学教育研究センター 助教）

2 掲載誌・論文タイトル

掲載誌 Zootaxa（国際学術雑誌）

論文タイトル A new species of the alpheid shrimp genus *Athanas* Leach, 1814 (Decapoda: Caridea) from the Sea of Japan

DOI:10.11646/ZOOTAXA.5277.2.6

3 当館職員の役割

研究材料となった本種のDNA実験と系統解析・形態図の作成を行い、論文原稿全体の執筆・推敲を行いました。

4 本件に関する問い合わせ先

別紙の問い合わせ先に御連絡ください。



配布先：京都大学記者クラブ、文部科学記者会、科学記者会、千葉県政記者クラブ
報道解禁：なし

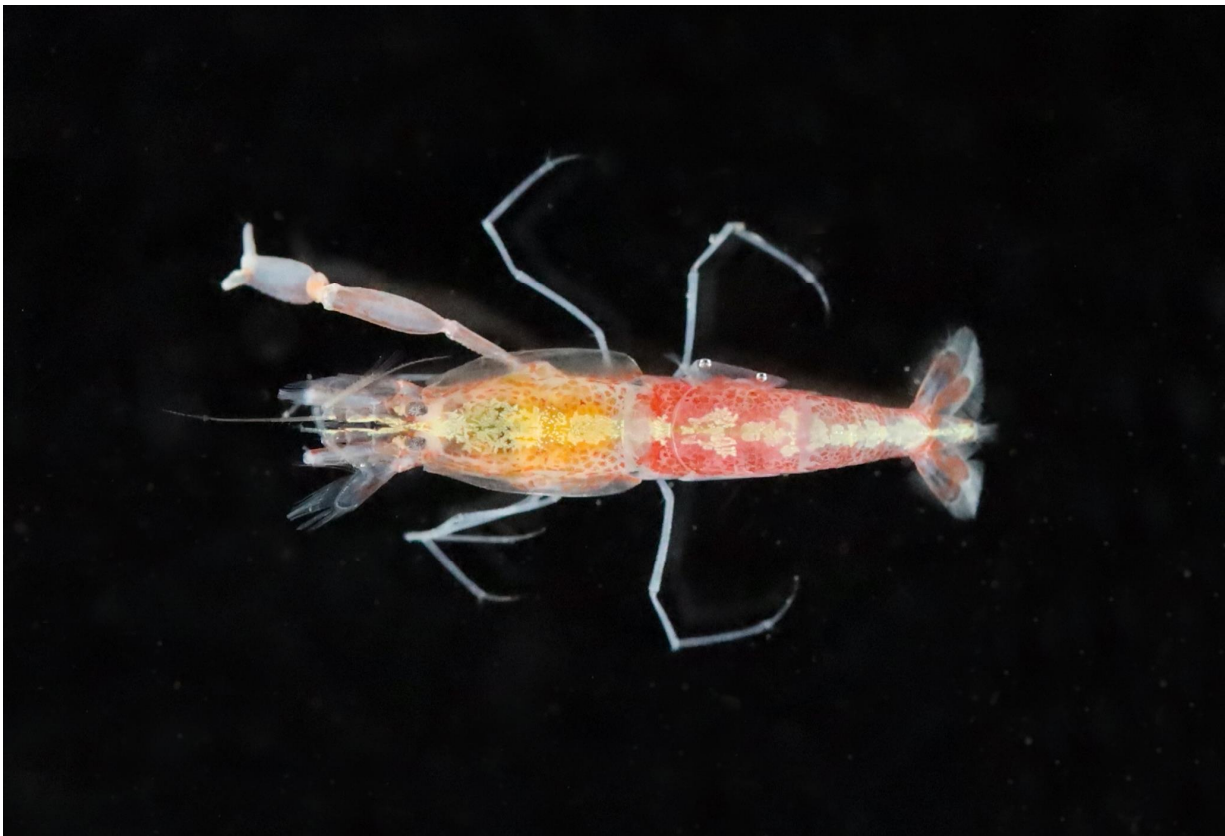
2023年5月10日

京都府伊根町沖から新種テッポウエビ類の発見 —貴重な抱卵メス1個体—

概要

千葉県立中央博物館 駒井智幸 動物学研究科長と京都大学フィールド科学教育研究センター 邊見由美 助教との共同研究グループは、京都府与謝郡伊根町沖の海底から未記載の甲殻類を発見し、新種「ワカサムラサキエビ *Athanas exilis*」として記載しました。新種の第3～第5胸脚の指節が細長いことから、ラテン語で「細長い」を意味する「*exilis*」を用いて *Athanas exilis* としました。なお、若狭湾から採集されたことから、「ワカサムラサキエビ」としました。一年間の定期調査で、ワカサムラサキエビは抱卵メス1個体しか採集されていないことから、個体数の少ないエビであることが考えられます。昨年新種記載されたワカサスナモグリに続いて、京都府の海からまた新種発見の報告となりました。日本海にエビ類の未知なる生物多様性があると考えられ、今後の研究により生物相を解明し、多様化のプロセスに関する知見が増えることが期待されます。

本成果は、2023年5月2日にニュージーランドの国際学術誌「*Zootaxa*」にオンライン掲載されました。



写真：新種として記載した「ワカサムラサキエビ *Athanas exilis*」 (撮影：邊見由美)

1. 背景

テッポウエビ類は十脚目コエビ下目に属するテッポウエビ科の甲殻類で、汽水域から漸深海帯の海底にかけて生息しています。みなさんも磯遊びやダイビングなどでテッポウエビ類が発する「パチン」という音を聞いたことがあるかもしれません。テッポウエビ類のなかでも、ムラサキエビ属 *Athanas* は、インド西太平洋や東太平洋に 41 種、日本からは 12 種が記録されている種の多様性の高いグループで、自由生活をする種から、ウニ類と共生する種、シャコ類やアナジャコ類など他の大型甲殻類の巣穴の中に共生する種も含まれており、生態の多様性も高い属です。今回、私たちは京都府若狭湾（京都府与謝郡伊根町沖）より採集された標本を精査した結果、ムラサキエビ属の未記載種であることが判明したため、その形態の詳細な記載をしました。

2. 研究手法・成果

舞鶴水産実験所の緑洋丸により、若狭湾の水深 90 m 地点にて、スミス・マッキンタイヤ型採泥器^{※1}を用いて採泥し、その泥の中からテッポウエビ類が発見されました。得られたテッポウエビ類は、全長 10 mm 程度の小型種で、特に触角や尾節の形状の特徴からムラサキエビ属の未記載種であることが明らかになりました。形態と併せて、ミトコンドリア DNA の 16S rRNA 遺伝子の部分配列も決定しました。

学名^{※2}は、新種の第 3～第 5 胸脚の指節が細長いことから、ラテン語で「細長い」を意味する「*exilis*」を用いて *Athanas exilis* としました。なお、若狭湾から採集されたことから、「ワカサムラサキエビ」としました。

3. 波及効果、今後の予定

京都大学舞鶴水産実験所では若狭湾沖での定期調査を進めていますが、一年間の調査で、ワカサムラサキエビは抱卵メス一頭しか採集されていません。分布などは不明なままです。今後の調査では、オスを含めたさらなる個体を採集することを目指しています。また、昨年新種記載されたワカサスナモグリに続いて、京都府の海から新種発見の報告となりました。日本海にエビ類の未知なる生物多様性があると考えられ、今後の研究により生物相を解明し、多様化のプロセスに関する知見が増えることが期待されます。引き続き、舞鶴水産実験所の緑洋丸を駆使して若狭湾における調査を推進してまいります。

4. 研究プロジェクトについて

環境 DNA を用いた深海性大型動物物のモニタリング法の開発と実践，ならびに基盤データの整備 サブテーマ 2：無脊椎動物における調査方法の開発と実践，ならびに基盤データの整備（環境研究総合推進費）（研究分担者：駒井智幸）

<用語解説>

※1 **スミス・マッキンタイヤ型採泥器**：海底堆積物を深さ 20 cm 程度まで採取する器具。

※2 **学名**：世界共通の生物種の名前であり、属名と種小名で構成される。

<研究者のコメント>

日本海側から次々と新種が見つかり、驚いています。地道な調査ってやっぱり大事ですね。太平洋側もがんばらんと（駒井智幸）

先日の若狭湾で発見されたワカサスナモグリに引き続き、ワカサムラサキエビが日の目を浴びることとなりました。次に出てくる生物も、どうぞお楽しみにしてください（邊見由美）

<論文タイトルと著者>

タイトル A new species of the alpheid shrimp genus *Athanas* Leach, 1814 (Decapoda: Caridea) from the Sea of Japan
日本海から得られたテッポウエビ類 *Athanas* の新種
著者 Tomoyuki Komai and Yumi Henmi
掲載誌 *Zootaxa*
DOI 10.11646/ZOOTAXA.5277.2.6

<研究に関するお問い合わせ先>

邊見 由美（へんみ ゆみ）
京都大学フィールド科学教育研究センター・助教
TEL：0773-62-9062
E-mail：henmi.yumi.7c@kyoto-u.ac.jp

<報道に関するお問い合わせ先>

京都大学 渉外部広報課国際広報室
TEL：075-753-5729 FAX：075-753-2094
E-mail：comms@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

千葉県立中央博物館
TEL：043-265-3111（代表）
E-mail：kouhou_cbm@chiba-muse.or.jp